

令和 7 年度第 2 回						作成日	令和 7 年 9 月 5 日
【あり方検討抜粋】甲山森林公園管理運営協議会議事録							
(議論を踏まえ、一部非公表)							
日時	令和 7 年 9 月 5 日(金)	時間	14:00	～	16:15	記録者	具志堅 葉子
場所	甲山森林公園管理事務所ビジター棟 会議室						
出席者	構成員 14 名／欠席 3 名、オブザーバー12 名、事務局 2 名、計 25 名※詳細別紙						
内 容							
※ 配布資料							
(資料 1) 令和 7 年度第 1 回甲山森林公園管理運営協議会における委員意見							
(資料 2) 甲山森林公園の整備・管理運営について							
(資料 3) 自然環境保全に関する基本的な考え方 (案) (甲山森林公園)							
(資料 4) 活性化に関する基本的な考え方 (案) (甲山森林公園)							
1. 開会							
(1) 会長挨拶							
(2) 出席者自己紹介							
(3) 定足数確認							
2. 協議事項							
(1) 『甲山森林公園のあり方検討について』 (兵庫県 公園緑地課 横山麻裕)							
※資料 1、3、4 公園緑地課より説明							
田村 資料 3 の 2 ページ、高圧送電線下の樹木管理の実施主体について「県が実施」とされているが、 関電にもメリットがあると思うので、景観や生物多様性保護に関して声をかけて一緒に実施して も良いと思う。							
公園緑地課 関電と協力しながら実施していきたい。							
山崎 樹の伐採による補償金のようなものは県に入るのか。場内の樹を伐るとキャンプ場オーナーに補 償金が入ると聞いたことがあった。							
首藤 入らないと思われる。							
吉岡 高圧送電線下に青色テープが巻いてある樹木がある。関電からは樹の伐採に関して報告があるの か。							
管理事務所 テープは公園がしたものではなく、また関電からの報告は公園では受け取っていない。県 も同様だと思われる。							
西宮土木事務所 関電と県で区分地上権を設定しており、保線区域であれば樹を伐っても良いことにな っている。関電が定期的にチェックし、安全の確保もしながら樹を伐っている。							

- 吉岡 アカマツがここ2年ほどで一斉に枯れたが理由は何か。枯れた原因を突き止めずに再生しても、意味がないのではないか。
- 大藪 アカマツは尾根筋などの肥沃ではない土壤に優占するが、落ち葉が堆積し競合する樹木が生え、常緑樹の背丈が高くなってくるとアカマツは枯れてしまう。常緑樹を間引いてアカマツの枝の広がり確保する、稚樹から育てるなどの取組みが求められる。常緑樹が優占した場所でアカマツ林を再生するには、皆伐あるいは山火事や土砂崩れなどで裸地になるところからスタートということになるが、なかなか難しいので、甲山では今あるアカマツ林は極力保全していくのが良いと考えている。
- 山崎 丹波では集落でマツタケ山の管理をしているが、皆伐して雨で土壤の栄養が流れてしまったような場所で2～3年経つとマツが生えてくる。またマツを植樹しても、雑木をしばらく除去しないとマツは育たない。20年前に植えたマツも松枯れが入り枯れていっている。マツの再生をしようと思うとどうしても手入れが必要となってくる。
- 乙藤 毎日展望台を利用している。虫捕りなどを楽しむ親子に出会うが、樹が枯れて生きものが少なくなっているという。大勢の方が来ているので、生きものが増えて欲しい。平日は高齢者や土日は若者も含め多くの方がゴミ拾いをして持ち帰っている。管理をお任せするのではなく、周辺に住む、あるいは公園を利用する側も協力していきたい。利用者は公園で出会うことで交流が生まれている。自然に恵まれ体操もできて、とても良い場所だと思っている。
- 山崎 パークマネジメントの中では、拾ったゴミを集めることはないのか。
- 管理事務所 森のようちえん（利用団体）が拾ってくれていたり、利用者が事務所に持ち込んだりするのを受け取ることはある。
- 乙藤 ゴミ箱はない方がよい。習慣で持ち帰るのがよい。
- 吉岡 ゴミ処理は人件費も処理費用もかかる。公園内でボランティア活動しているとゴミを持ってくる人がおり、管理事務所へもっていくようお願いしている。自宅に持ち帰り処分までしてくれるのは有難い。除草していると、見えなくなるような場所にはゴミが投げ捨てられている。
- 山崎 この公園はきれいな方だと思う。西宮市民の民度が高いこともある。
- 大藪 資料3のゾーニング図A。紫色の「甲山自然の池付近」は「甲山自然の家付近」であり、北口から自然の家に向かう道沿いも紫色に塗られるべき場である。このエリアは、コナラとアカマツの混交林で最後のフロンティアといったところ。西宮市と連携しながら美しい森づくりのひとつのあり方として森林管理でこの辺りを確保していきたいと考えている。ヘアピンカーブの中の公園内のところを紫色にしていきたい。花崗岩が現れて土壤が痩せており、アカマツもコナラも残っており、常緑樹が進出しづらい良い場所である。展望台のところは道沿いにあり線的で、面的な確保が難しい。
- 公園緑地課 資料3のゾーニング図B。希少種の（略）や（略）の記載があるので、公表しない方がよいのか。以前も一般に共有しない取扱いとしていたと思う。
- 山崎 生物多様性の確保の点から考えると公表しない方がよいと考えるが、みなさんはどう思うか。
- 田村 あえて公表した上で守っていくという方法もあるが難しい。（略）は構わないと思うが、美しい（略）や（略）などは公表すると採られる可能性がある。
- 公園緑地課 では、従前からの通り一般に共有しない取扱いを続ける。

杉田 野鳥に関しては（略）や（略）などは定期的にくるものではないので良いが、以前巣箱をかけている人が、（略）は可愛いし懐くので雛ごと盗まれたことがあると言っていた。ペットショップで（略）の傷の無い綺麗な個体を見つけ警察に届けたことがあるので、盗んだのは多分業者であろう。（略）の求愛の鳴き声を流しておびき寄せている人を見たこともある。（略）を実際に見てみたいと思うが、水生昆虫などはマニアがいて珍しいものは捕られる可能性がある。ただ、子ども達に現物を見せられたら貴重な体験になると思う。

乙藤 毎日たくさんの人が何時間もカメラを持って野鳥を見ている。（略）を待っているらしい。

杉田 3日間の休暇をとってみくるま池で待ったことがある。良い写真を撮ろうと思ったら、時間帯、天気なども考えて待つ必要がある。最近はカメラが便利になってバードカメラマンが増えており、餌付けをして狭い場所で数十人が集まっているような公園もある。クローズドにするとおもしろくないが、オープンにするとマニアがやってくる。難しいがある程度オープンに公表することで、森林公園に親しみが出ることの方が良いと思う。生きものに会うことで公園の自然の価値を感じることができる。何とか被害のないように公表して欲しい。

公園緑地課 資料3のゾーニング図Aの「森林（アカマツ）」を加えることと、区分の実施主体を修正して、まとめさせていただきたい。

田村 ゾーニング図AやBなどで、新しい情報があれば県に伝えればよいということか。

公園緑地課 そうして欲しい。

能登 ゾーニング図Bの（略）は（略）の間違い。（略）は（略）。みくるま池近くで（略）が見つまっている。

公園緑地課 植物名は修正する。

※資料2 公園緑地課より説明

田村 資料2の3ページリノベーション方針。利用状況の赤字部分「園内全域がほぼ森林のため、新たな集客施設設置の余地がない」に違和感がある。森林としての利用が前提であるのに、集客施設についての言及があるのはおかしい。また「森林としての利用は行っていない」というのもおかしいと思うが、森林内に立ち入っての利用をしていないという意味か。

首藤 森林を施設とらえて利用状況、課題、対応を整理しているので、違和感があることと思う。「集客施設」についての文言はその他のカテゴリーに入れるなど再検討したい。

山崎 豊かな森をどう表現するのが問われている。樹が生えているだけでは豊かではなく、生物多様性が高いことや緑そのものの効用もある。「豊かな森」の定義をどこかで追及しないと、整備方針も出てこないのではないか。常緑化を容認するのか、それとも里山的に整備するのもはっきりしていない。どちらにするのかを極端には考えないというのが一つの方針ではあると思うが、先ほど話題になった松林再生などは里山的整備に近く、常緑樹の巨木高齢化とのバランスが「豊かな森」というキーワードの中にどう入ってくるか、ということだと考える。

首藤 課題で「樹木の巨大化」や「環境省の生物多様性保全上重要な里地里山に選出され、準じた管理をしていきたいができていない」と記載しており、より明確に書いた方が良ければそうしたい。ただ書いたところで予算があるわけではなくスムーズな対応はできないが、ゾーニング図に沿って時間をかけながらも順番にやっていきたいというのが主旨である。

山崎 理解した。

- 大藪 西宮土木事務所と調整しているところだが、ゾーニング図を作ってコナラ・アカマツの雑木林を保全する場所をモデル的に設置し、より良い施業を検討するエリアとしたいと考えている。西宮市風致保全課からも、日常管理の延長線上で森林に手を入れる行為には何も制限がないとの回答を得たので、大学として施業方法の検討を進めたいと考え、この協議会の場で少し説明させていただきたい。施業は実際の運営管理方法に則った形で試行してみたいと考えているところで、今年度みなさんに現地を見ていただきながら、一部のエリアでも森を変え、保全し、豊かな森づくりにつながる場所が造れたらと考える。
- 山崎 コナラの大径木化によりナラ枯れが入ったということもある。また、甲山はもともと展望が良かったのが今はまったくなく、高木のコナラ林となってしまうている。
- 大藪 リノベーション方針の中で、シンボルゾーンのクスノキ並木が高木化し甲山への眺望が阻害と書かれているが、愛の像の台も剥がれてきており大変もったいないことだと思う。実際、手を入れるのは難しいのか。
- 首藤 ゾーニング図Aでも利用重視となっているシンボルゾーンは展望台、駐車場、自由広場とともに優先的に伐っていくゾーンと認識しており、積極的に管理していきたい。
- 大藪 有難い。40年ぶりに来園した人から、以前は道沿いに並ぶオブジェも見えて見通しが良かったと聞いた。樹木への対応はそれでよいが、愛の像の台が剥がれてきており、少しの手直しで延命できるのであれば修復も検討してほしい。
- 杉田 眺望確保のため、甲山の山頂から公園内部まで大掛かりな樹木伐採を20年前にしたと思う。
- 首藤 どこを優先的に樹木伐採していくかは協議会で検討するものだが、園路は最優先で、その次は展望台かシンボルゾーンどちらが優先なのか、また、文化的価値のある巨石が見えづらくなっているという指摘などもあり、甲山森林公園はそういった箇所が多く予算にも限りがあることから、またこの場で相談させていただきたい。
- 杉田 20年前の樹木伐採はボランティアによる作業ではなかったので資料が残っていると思う。
- 首藤 調べてみる。
- 乙藤 健康遊具広場を利用している人も多い。毎日15人ほどで体操をしていることが健康につながっている。荷物置きに利用していたベンチが1つなくなったので何とかして欲しい。
- 山崎 あとは予算の問題も関わるということ。
- 首藤 社会実験的な望ましい森林管理の在り方の検討については、有馬富士公園などでも行っており、県としても異論はない。
- 大藪 予算をつけて継続管理していく布石となれば良いと考えている。継続的なボランティアを西宮市民や地域の方々で募集しながら、多くの人に関わる森林づくりを指定管理者の手の届かないところで少しずつでも進めていけるようになると良いと考えている。
- 勝野 資料3ゾーニング図Bの取扱いについて、「貴重種は公表しない」、「全く公表しないのもどうか」のどちらの意見もあった。動植物それぞれで扱いは異なるものと思うが、位置情報さえなければ良いのか、それもダメなのか。市場価値のあるようなものは出さず、ないものは乱獲の恐れがないから出して良いということか。改めて確認したい。
- 杉田 存在だけでも出したい。何もかもクローズにするのはもったいない。ただ、甲山自然の家に生息する（略）の卵塊が取られているとのことなので位置情報は避ける方がよい。

田村 実際に（略）の乱獲があった。

勝野 配布パンフレットに写真だけ入れるなどか。位置情報はなく、種によって出し方も工夫しながら生物多様性の説明の中で例示するということで問題はないか。

山崎 名前を出すだけでも危ない種もある。

勝野 ゾーニング図Bは出さず、パンフレットに位置情報は出さず、説明の中に写真のみで種を選びながら記載をしたい。

山崎 生物多様性があることを示す上でも、全てクローズドも問題があると思う。

首藤 今後はあり方検討ではゾーニング図Bを出さない。パンフレットの改訂やPRをする際に、写真や説明をいれていくという対応となる。